

健康と医療 **いきいきゼミナール**

健康と医療についてゲストに語っていただくコーナーです

テーマ「**新型コロナウイルス感染症と気管支ぜんそく**」

ゲスト **白石内科クリニック 干野 英明 院長**



—**気管支ぜんそく患者は新型コロナウイルスに感染しやすいのですか。また、気管支ぜんそくは重症化のリスク因子となりますか。**

新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナウイルス)では、高齢者や高血圧、糖尿病などの基礎疾患を有する患者さんは重症化しやすいと言われています。慢性呼吸器疾患においても同様の関連性が指摘されていますが、

今回は気管支ぜんそくとの関連について取り上げます。

気管支ぜんそくはアレルギーなどさまざまな刺激に反応し、せきや喘鳴(ぜんめい)などの症状を特徴とする気道の慢性炎症性疾患です。一般的に気管支ぜんそくの人にはウイルスに対する免疫が弱いとされ、症状増悪をきたすウイルスとして(新型ではない)コロナウイルスも挙げられます。では、気

管支ぜんそくの人には新型コロナウイルスに感染しやすいのでしょうか。最近行われた新型コロナウイルス患者の発症や重症化について検討した研究では、気管支ぜんそくの患者さんが特に新型コロナウイルスにかかりやすいということはなく、また、罹患した場合も重症化する割合は、ほかの基礎疾患や慢性呼吸器疾患を有する患者さんと比べて高いということはないと報告されています。

新型コロナウイルスがヒトに感染するためには、細胞上にウイルスが結合するための「ACE2」というタンパク質の発現が必要です。ACE2は年齢とともに増加し、女性よりも男性に多く、喫煙によっても増えると言われています。一方で、気管支ぜんそくの患者さんは、アレルギーに関連する「インターロイキン13」という体内物質が増加しやすく、また、ウイルス感染に関連する「インターフェロン」という体内物質は減少しやすい傾向があります。インターロイキン13はACE2の発現を減らし、逆にインターフェロンはACE2の発現を増やす働きがあることが分かっており、その結果、気管支ぜんそくの患者さんは新型コ

ロナに罹患しにくく、重症化しにくいのではないかと推測されます。

そうはいつでも気道に炎症がある状態は、異物の侵入を防ぐバリア機能が弱くなり、ウイルスにさらされやすくなっていることは確かですので、吸入ステロイドを中心とする治療を続けることが大切です。吸入ステロイドが新型コロナウイルスの感染リスクを高めるのではないかと心配される方がいらっしゃるかもしれませんが、気道の炎症を抑えることは、かぜやインフルエンザの予防にもつながります。決して自己判断で吸入薬を中止しないでください。また、ACE2の発現量を増やさないためにも禁煙はとて重要で

病院訪問 **白石内科クリニック**



風邪、気管支炎、肺炎、喘息(ぜんそく)などの呼吸器疾患やアレルギー性鼻炎、花粉症といったアレルギー性疾患の治療を中心に、肺がんのセカンドオピニオン、禁煙外来(保険診療)まで、きめ細やかな診療を心がけています。2013年7月1日に移転しました。

住所/札幌市白石区中央1条7丁目10-30  
白石中央メディカルビル 一階  
電話番号/011-868-2711  
診察受付/月・木曜 9:00~12:30 14:00~19:00、  
火・金曜 9:00~12:30 14:00~18:00、  
水・土曜 9:00~12:30  
休診日/日曜・祝日 院長/干野 英明

企画制作/北海道新聞社営業局